

AFTER NATURE

自然からの継承、そして葛藤



Conseil des arts Canada Council
du Canada for the Arts

このプロジェクトはカナダ芸術評議会の支援を受けています。

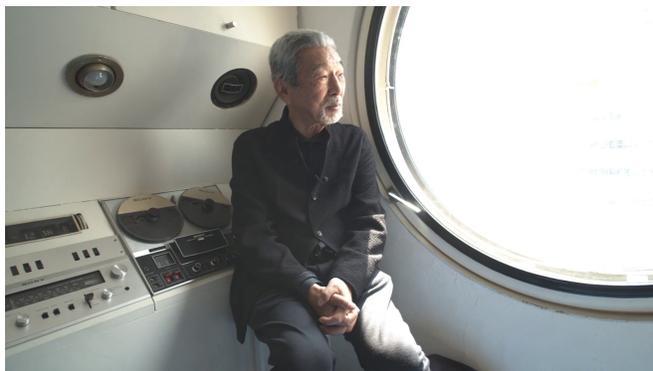
監督 Christopher Blackmore | 協力 阿部暢夫、黒川未来夫、前田達之 | 撮影 森脇由二 | 翻訳 降幡
恵、Daniel González、國澤明生、國澤奈美 | 編集 Josh Frank、Milo Reinhardt | James Goddard、
Lena Sasakura Shockleyに心から感謝します。

上映時間: 16分

画面比率: 16:9 (1920x1080)

画質: フルハイビジョン

サウンド: ステレオ



あらすじ

第二次世界大戦後、日本は戦争で打撃を受けた都市を復興させ、再考する必要がありました。過去と決別するためのビジョンを提供したのが、メタボリズム建築運動の代表的存在である黒川紀章のような夢想家たちです。メタボリズムの奇妙で非現実的な建物は、社会と歩調を合わせるために有機的に進化していく新しい「寿命」の形を体現することが意図されていましたが、21世紀には、そのほとんどが姿を消すか荒廃の一途を辿っています。

『After Nature』は、今や過去の存在となったこの未来主義に焦点を当て、その活動、衰退、再生への希望の物語を提示します。この短編映画では、現存するメタボリズム建築、東京の中銀カプセルタワー (1972年) と長野市近郊の山中にあるカプセルハウスK (1973年) の2つを訪れ、黒川紀章の長男である黒川未来夫氏、中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト代表の前田達之氏、中銀プロジェクトを指揮したメタボリズム建築家の阿部暢夫氏によって語られます。

瞑想的で哀愁に満ちた『After Nature』では、静かな、今に相応しい物語がインタビューと映像によって綴られます。1964年の東京オリンピックの余韻によって大きく花開いたメタボリズム。その遺産は2020年以降、復活するのか、それとも永遠に衰退していくのでしょうか？

映画制作チーム

監督

Christopher Blackmore

モントリオールとアジアに拠点を置く、カナダ出身のライター/映画監督。編集や著作物にはポンピドゥー・センター、中国のコンテンポラリー・アート誌『芸術界 LEAP』の作品などが含まれる。現在アメリカ・ミシガン大学アナーバー高の映画/歴史の博士課程に在籍。

撮影

森脇由二

東京で活躍する日本生まれの映画/映像監督。2019年には、日本の有名な民謡音楽バンド、民謡クルセイダーズとコロンビアの新しいクンビエロシーンを担うバンドの一つ、フレンテ・クンビエロのコラボレーションが実現した「民謡クンビエロ」のミュージックビデオ2曲を手掛けている。

編集

Josh Frank

カナダ出身のドキュメンタリー映画監督/音楽家。ニューヨークと北京に拠点を置く。HBOの『VICE News Tonight』、Vice China、Quartz Newsのために数多くのニュースを制作し、『Collecting Insanity』(Asia Society/ChinaFile)などの自主制作映画も出がけている。ニューヨーク大学でニュース&ドキュメンタリーの修士号を取得。| joshua-frank.com

Milo Reinhardt

インタラクティブメディア、サイバーカルチャー、拡張現実の特化したモントリオール発の芸術家集団「susy.technology」の共同設立者/技術責任者。MUTEKデジタルアートフェスティバル(2015~2018)とレッドブル・ミュージック・アカデミー(2014)で意欲的なサウンドとマルチメディアのインスタレーションとパフォーマンスを発表。2015~2018にはアーティスト、Jon Rafmanの主要なビデオアート作品すべてにおいて、映像・音響製作のゼネラリストを務めた。| susy.technology

よくある質問

この映画はどのような過程で実現したのでしょうか？

数年前、私の友人の何人かが中銀カプセルタワービルに住居を構えていました。ある晩そこを訪れる機会があり、建物に深い興味を抱くようになりました。特に、暗闇にそびえ立つ中銀は現実とは違う幻想的な場所を感じられ、記憶の中にある何かを呼び起こしました。私はこの建物について、後に「カプセルハウスK」について、大きな哲学的な考えを語るための枠組として表現ができるのではないかと考えました。

幸運なことに、日本と北米の両方で素晴らしい人々から支援を受けることができました。「部外者」であることは、時には利点もあります。この作品に登場している方々の全員が快くインタビューに応じてくださり、貴重な時間を割いてくださいました。

これまでに多くの書籍やいくつかのドキュメンタリー映画がメタボリズムと中銀について扱っています。今この新しい映画を作ることになったきっかけは何だったのでしょうか？

「破壊」と「再生」の最中にある現在の中銀が置かれている状況は、何か詩的なことができる機会だと感じました。世間には、レム・コールハースの『プロジェクト・ジャパン メタボリズムは語る...』のような素晴らしい建築に関するモノグラフが多数存在します。しかし、メタボリズムについての「心を打つ」映画はまだ存在しません。そのため、私がやってみようと思いました。

メタボリズムの衰えることのない魅力とは何でしょうか？

メタボリズムは、非現実的な（そしておそらく「型破り」である）考えが存在した、20世紀半ばの特別なつかの間の時代を体現しています。その考えには非常に純粹なところがあります。興味深いのは、この運動で生まれた作品は広く認識されているにもかかわらず、現実ではかなり放置されていることです。メタボリズムの建物の希少性が、その神秘性をさらに高めているのかもしれない。

『After Nature』は建築の保存のために何ができますか？

私の念頭にあったのは、素人の部外者として、何か新しいことができるのかを確かめることでした。老築化したこれらの建物への理解は、建物を実際に訪れ、深く関わっている人々と個人的に話すことで深まりました。この作品で提供される会話と映像、そして考えと感情が、建築にそれほど興味のない人々を引きつけることになればと願っています。